第86号　　令和4年7月20日

おおさわ学園コミュニティ・スクールだより

おおさわ学園　コミュニティ・スクール委員会　会長　三瓶恭子

http：//mitaka-schools.jp/ohsawa/index.html

「コミュニティ・スクール」から「スクール・コミュニティ」へ

おおさわ学園三鷹市立第七中学校　　校長　勝野　能光

おおさわ学園コミュニティ・スクール委員は２６名（内教員６）です。委員は、月１回の委員会で、学校や学園の運営に関わる様々な事項について「意見」を述べ、学校・学園の方針を「承認」しています。

「熟議」をすることも多くあります。また、教育活動をより一層充実させるために、教育ボランティアの協力依頼。学園・学校に対する評価。それらの活動の広報。地域と学園・学校の行事等の密な連携を図る。等の活動も行っています。

つまり「コミュニティ・スクール委員会」は、地域住民等の学校運営への参画や学校、家庭、地域の間の情報交流の中心的役割を担い、小・中一貫教育の土台として機能しているのです。

これらの活動は、子どもたちにプラスになっています。学校・学園運営に多様な意見が取り入れられるとともに、保護者や地域住民の学校・学園理解が深まり、当事者意識も醸成されています。「コミュニティ・スクール」は「地域とともにある学校」「スクール・コミュニティ」は「学校・学園や子どもたちをきっかけにしてできるコミュニティ」です。「スクール・コミュニティ」での活動が、学校・学園づくりだけでなく皆さま自身の生きがいや地域づくりにもつながると考えます。

「おおさわ学園コミュニティ・スクール委員会」の活動に今後もご期待ください。

おおさわ学園　コミュニティ・スクール委員会

会長　三瓶　恭子

CS会長となり4年目を迎えました。就任してからの3年間、出来ることを探りながら学校と関わってきました。子どもが学園を離れてしまった私にとって学校は少し縁遠く感じていましたので、学校に関わりたくてもなかなかきっかけをつかめない地域の大人の立場がよくわかります。

学校を起点とした地域活動がCSを中心に広がっていくと良いなと思います。

このおおさわ学園は多くの自然に囲まれ、大学や研究施設も身近に感じられる、恵まれた教育環境にありますが、現在小中学校に通う児童・生徒にとっては日常の一場面であり、特に珍しいとは感じないでしょう。この貴重な時期に子どもたちに関わる大人として、出来るだけ地域の良さを知り、そのポテンシャルを活かした経験をすることのお手伝いが出来たらと思っています。

子ども達がいずれこの学園を離れ、より大きな世界へはばたいていく過程で、世界地図では小さな日本という国の、首都東京の三鷹市にある、おおさわ学園で育ったという事を再認識する時が来た時、多くの思い出と共に、自己の確立の原点を見ることがあれば、本当にうれしいことだと思います。

七中GIGAスクール特別講座in国立天文台

～道三 啓吾氏～

第2回CS委員会(5月19日)では、委員研修を開催しました。

CS委員でもある、三鷹市社会福祉協議会 地域福祉推進係 係長 道三啓吾さんに「社会福祉協議会について」をテーマにお話していただきました。

みたか社協の仕事内容や目指しているものについてなどをお話ししてくださいました。

おおさわ学園では、七中生がボランティアに取り組む際の「みたかボランティア手帳」を発行していただいたり、ボランティアに関することでお世話になっています。

田んぼのナイトツアー&ほたる観賞

ほたるの里・三鷹村では(5月中旬から6月中旬)、自生のゲンジボタルを安全に鑑賞できるよう村民が通路等を警備、監視をしています。

大沢台小5年生と羽沢小の5・6年生及び保護者の方々と6月15日「夜のほたるの楽校」が行われました.

七中階段の東側の保護地へ海老沼副校長の先導でほたる観賞に向かい、一般の方々も含め、221名の方が例年より多いゲンジボタルを鑑賞することが出来ました。

大沢台小の6年生のために17日(金)に追加のナイトツアーとほたる観賞を行うことができ、村民の方々が快く対応して下さいました。

当日は天候もよく、451名の方が保護地内のゲンジボタルを観賞していました。

夏におススメの花

梅雨が終わると本格的に暑い夏が始まります。人もまいってしまうような暑い時期にもきれいに咲いてくれる花があります。これから長く咲く夏の花を紹介します。

1つ目はサフィニアです。真夏でも花が途切れることなく咲き、育て方によって色が変わります。

2つ目はペンタスです。星形の花が可愛らしく、成長がそれほど早くはないので、間延びすることなく、きれいな草姿を保ちます。

どちらの花もしっかり管理することで、秋の終わりまで咲いてくれます。元気な花からパワーをもらって暑い夏を乗り切りましょう！

～えびさわ農園～

サフィニア　　ペンタス

羽沢小学校では、校支援アプリから、給食のメニューを配信しています。「食べることは生きること」と言われます。子供たちが日々学校でどんな物を食べているのかを知っていただき、御家庭での会話にお使いいただけたら幸いです。

令和４年度　おおさわ学園コミュニティ・スクール委員会　組織図

学校部会			
部会	第七中学校	大沢台小学校	羽沢小学校
会長	三瓶　恭子		
副会長 兼 部会長	榛澤　久子	松久　多佳子	遠間　美穂
	磯崎　三喜年	古関　直子	池上　正則
	岩田　恵美子	田中　和子	海老澤　一晃
	道三　啓吾	榊原　章夫	菅野　聡美
	盛田　和彦	松村　陽	重松　真一
	岩田　洋子		湯澤　弘幸
SC 推進員		藤橋　初美	倉田　清子
校長	勝野　能光	蔵野　貴通	髙橋　奨
副校長	廣瀬　尊貴	海老沼　寛之	田中　新一
	９名	８名	９名

作業部会			
会長	三瓶　恭子		
部会	評価部会	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ部会	広報部会
副会長 兼 部会長	松久　多佳子	榛澤　久子	遠間　美穂
	磯崎　三喜年	道三　啓吾	池上　正則
	岩田　恵美子	岩田　洋子	海老澤　一晃
	重松　真一	松村　陽	菅野　聡美
	古関　直子	湯澤　弘幸	田中　和子
	榊原　章夫		
	盛田　和彦		
校長	勝野　能光	髙橋　奨	蔵野　貴通
副校長	海老沼　寛之	廣瀬　尊貴	田中　新一
	９名	７名	７名
SC 推進員	倉田　清子　　藤橋　初美		

ほたるの里･三鷹村での田植え体験学習

6月11日（土）に毎年恒例の大沢台小と羽沢小の5年生による農業体験のひとつほたるの里･三鷹村での田植えが行われました。

当日は天候に恵まれ、指田村長の挨拶から始まり、村民の皆さんのご指導を受けながら、涯線側の田んぼ2面を約2時間で各校1面をどろんこになりながら田植えを行いました。

村民の皆さんからは、今年はいつもよりきれいに植えられていると感心されました。

翌日の12日（日）には、ちびっ子農業体験の田植えが行われ河村 孝 三鷹市長、土屋けんいち 市議会議長、貝ノ瀬 滋 教育長及び関係各所の来賓の方、また、保護者の方々に見守られながら152名の親子が野川側の田んぼに苗を植えました。田んぼの周りには多くの方が集まり、田植えするのをまだかまだかと子ども達が順番を待っていました。

式典が10時から始まり11時30分には約3分の2を植えたところで親子の田植えは終了となり、
残りを村民の方が手際よく苗を植えて終了となりました。
とても、気持ちの良い一日でした。

「おおさわ学園の先生方とCS委員との懇談会」
（令和4年5月7日　七中体育館）

おおさわ学園（七中、大沢台小、羽沢小）の先生方とCS委員にお集まりいただき、グループディスッカッション形式の懇談会を開催しました。
CS委員会とは何か、おおさわ学園の子どもたちの良さと課題について、地域人財についてなど事前に先生方からいただいたアンケートをもとに、11グループに分かれて話し合いをしました。

【グループディスカッション　まとめ】

◎子どもたち、保護者の様子
- ボランティア活動などを通じて関わる中で、以前より自発性が足りないように感じる
- ボランティア活動などで地域の人に褒められて自己有用感を得ている子どもたちもいる
- スポーツにおける競争心が低い
- 小学校、中学校の支援級では「人と人とのつながり」など基本的なことを大切に。
- 子どもたちの放課後の居場所作りが大切
- ゲームやスマートフォンやSNSの扱いについて

◎先生方の様子
- 教員と子どもたちの時間を確保したい
- 人員不足
- 乗入れ授業の目的は？何が必要なのか？もっと有効活用できないか？
- 勤務時間が長い、働き方改革を！

◎CS委員との関わりについて
- 地域の良さを学校教育にどういかしていくか
- 当初は地域側にも「なぜ学校と関わる必要があるのか？」という思いもあった

◎学習について
- タブレット学習の便利な面、不便な面、活用に差が出ている
- タブレットの使い方を保護者も把握することが必要
- 算数数学では、解き方の決まった問題はできるが少しひねるとできなくなる
- 七中の地域未来塾が上手く活用されていない

◎地域人材について
- おおさわ学園の豊かな体験や経験は、子どもたちが高校生になり「特別なこと」だと気が付く
- 天文台とのつながりを復活させたい。七中天文部など
- 国語の体験学習をしたい
- 七中の書道の人財が足りない
- ＩＣＵの学生と懇談会のような交流をしたい

◎サポートについて
- タブレットの不具合やオンライン授業などに対応できるサポートが欲しい
- 七中の部活サポートが少ない。外部指導員も増やしたい
- サポート隊の継続と増加
（子どもが卒業しても学校とのつながりを）